

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立加美南部小学校
学校長名	吉岡 千明

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・加美南部小学校では、第6学年 82名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語A・国語B、算数A・算数Bそれぞれが全国平均を下回るが、大阪市平均とほぼ同じである。前年度より、国語A・国語B、算数A・算数Bの合計で、25.2ポイント全国平均との差が縮まった。

向上の要因としては、落ち着いた学習できるようになった学習環境の改善が一番の要因と考えられる。また少人数による個に応じた学習や反復練習を多く取り入れたスモールステップ学習などが定着してきたことも要因の一つと考えられる。

しかし、「自分の考えをきちんと伝える学習」「情報を整理して考える学習」が十分でききれていなかったことが、児童質問や算数Bの結果から知ることができる。児童の意欲は去年同様十分にあるので、自校の課題としてとらえ指導を進めていきたい。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 漢字の読み書きについては、日常的によく目にする語については定着率が良いが、そうでないもの、特に抽象的な熟語の定着が悪い。話の内容を読み取ったり、それをもとに自分の考えをまとめる力については伸びてきたことが認められる。児童の意識調査からは、自分の考えを発表する力の弱さや作文に対する苦手意識が特徴としてあげられる。少人数学習の場を生かし、自信をもたせる取り組みを進める必要がある。

〔算数〕 少人数学習や反復練習を多く取り入れたスモールステップ学習の成果で基礎的な力はついてきた。小数や分数を使った四則計算が向上している。B問題においては、正答率はあまり伸びが見られない。研究授業などで取り入れている「筋道立てて考えを伝える」や「図表を利用して自分の考えを伝える」などの学習がまだ十分生かされていないと思われる。

児童はどの教科にも意欲的に取り組む態度が育ち、課題に挑戦する姿勢が伺える。研究授業で得られた成果を他の教科にも転化し、様々な場面で表現・伝達できる児童を育てたい。

質問紙調査より

自尊感情がまだ十分育っていないため、自分の価値や行動に自信が持てない児童が多い。そのため消極的な行動をとる場面がみられる。しかし、自分の将来に対し夢や希望を語る児童が増えてきたのは明るい材料である。学習の中で友だちと伝え合うという活動を重視してきたが、そのことが大きく影響していると思われる。

学習面に関しては、今までは、家庭での学習時間の少なさが課題であったが、かなり改善が進んできた。その日の復習を中心として、家庭学習にあてる時間は、大阪市の平均を大きく超え、全国と同じレベルであった。この点に関しては、家庭での学習習慣の大切さを今後とも訴え、継続指導していくことが大切であると考えられる。

今後の取組

- ・教科の枠を越えて、「聞く」「見る」「読む」活動を充実させるとともに、ICT機器の活用を図り情報のとらえ方や処理の仕方を身につけさせ、児童が主体的に学習する場を増やす。
- ・表現活動を充実させるためにメモの活用、図やグラフの効果的な使い方、相手意識を持ったスピーチなどの指導を充実させていく。
- ・漢字を更に日常生活に取り入れて活用の機会を増やし、意欲と定着度の向上を図る。
- ・「書く」活動に苦手意識をもつ児童が多いので、「書く」活動における少人数指導の充実に努める。さらに、習熟度別指導を効果的に活用し、苦手意識の克服を図る。
- ・計算能力（特に高学年で学習する四則計算）の向上のため、ドリルプリント・復習プリントの充実と活用を図る。

【 全体の概要 】

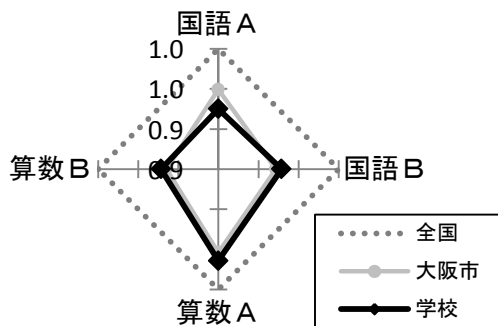
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	69	53	76	42
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

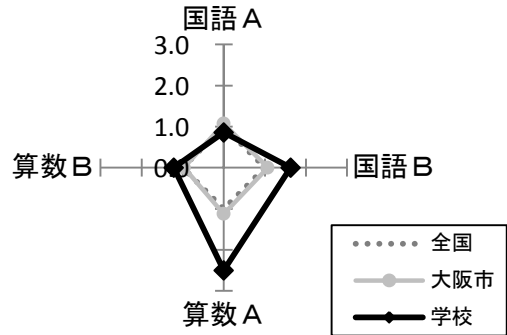
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	2.4	7.0	4.0	7.8
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

A 問題

平均正答率(%)

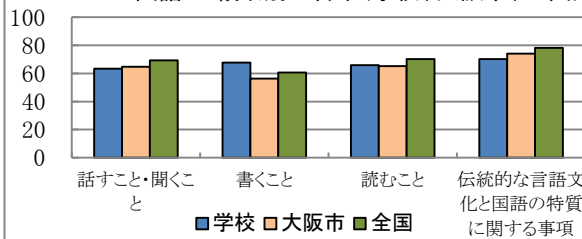
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	63.3	64.6	69.2
	書くこと	67.7	56.2	60.6
	読むこと	65.8	65.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.1	74.0	78.0

B 問題

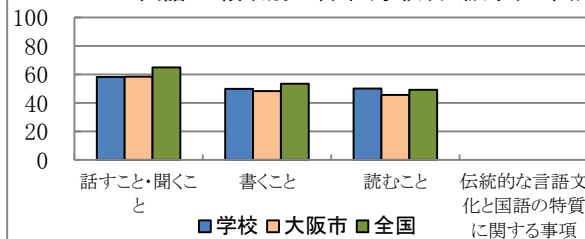
平均正答率(%)

		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	58.2	58.4	64.9
	書くこと	49.9	48.3	53.4
	読むこと	50.2	45.5	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—

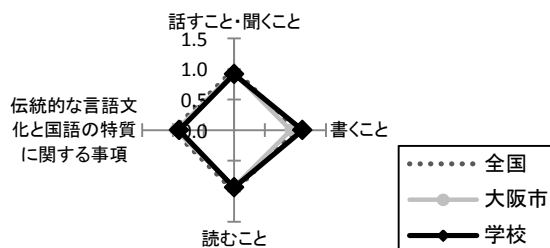
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



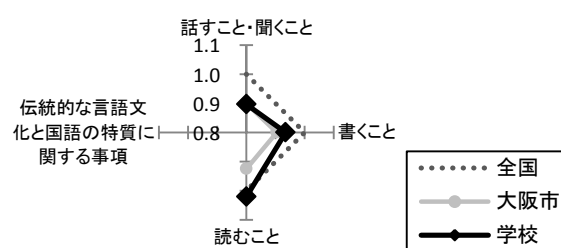
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



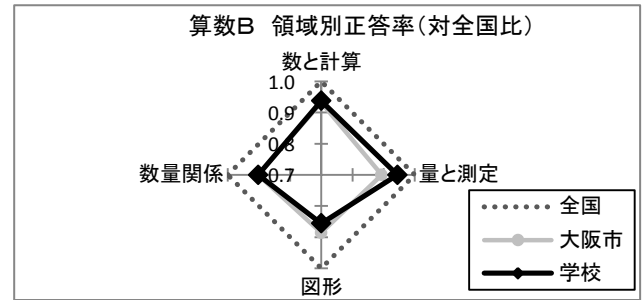
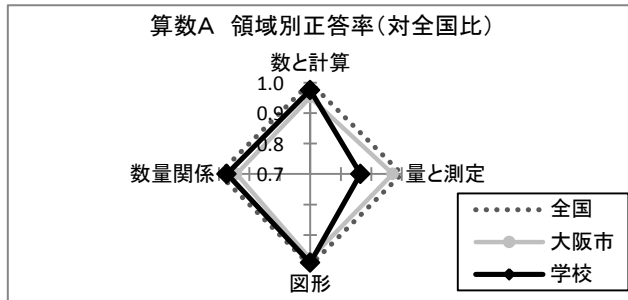
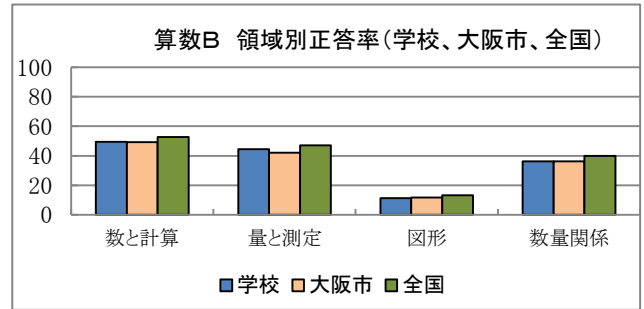
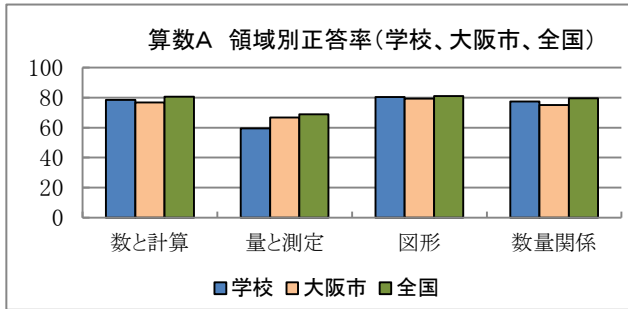
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 算 数 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	78.6	76.7	80.6
	量と測定	2	59.5	66.8	68.8
	図形	2	80.4	79.3	81.1
	数量関係	5	77.5	75.0	79.6

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	5	49.5	49.2	52.8
	量と測定	2	44.4	42.0	47.0
	図形	1	11.3	11.7	13.2
	数量関係	8	36.1	36.1	40.0



児童質問紙より

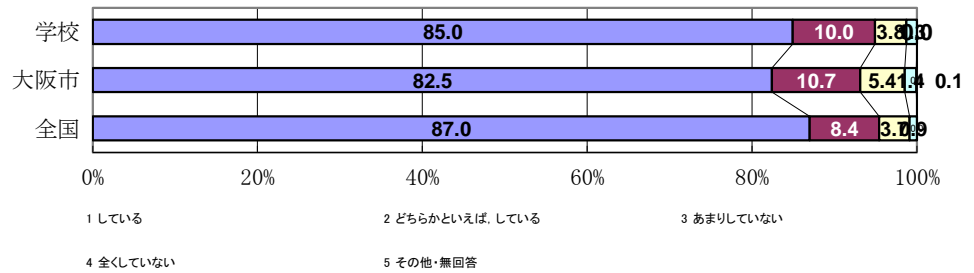
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号

質問事項

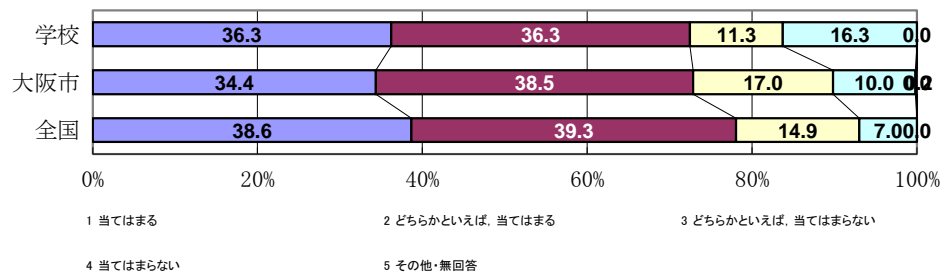
1

朝食を毎日食べていますか



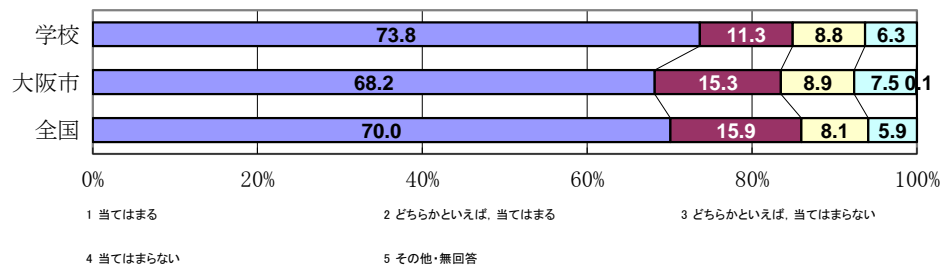
6

自分には、よいところがあると思いますか



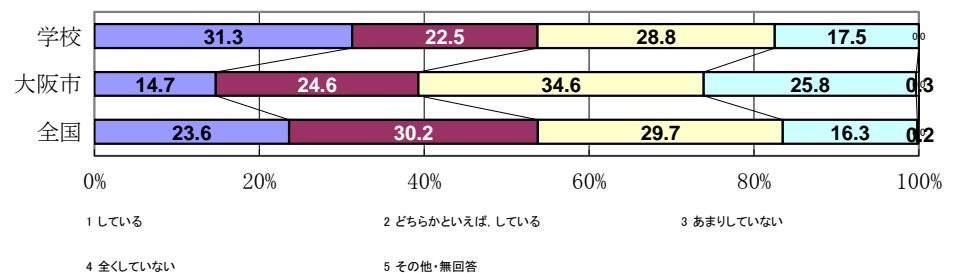
10

将来の夢や目標を持っていますか



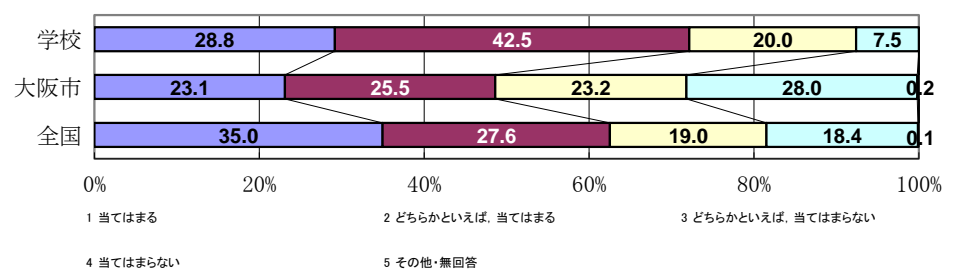
32

家で、学校の授業の復習をしていますか



40

今住んでいる地域の行事に参加していますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

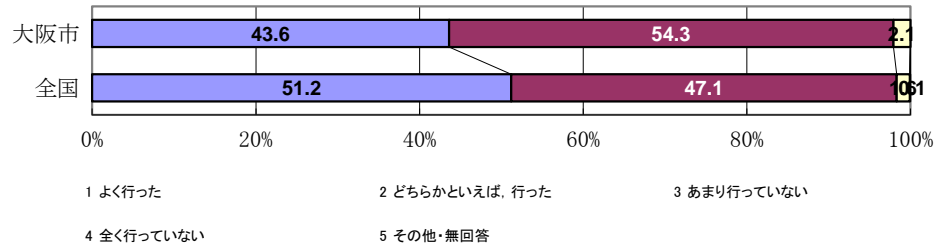
質問番号

質問事項

37

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか

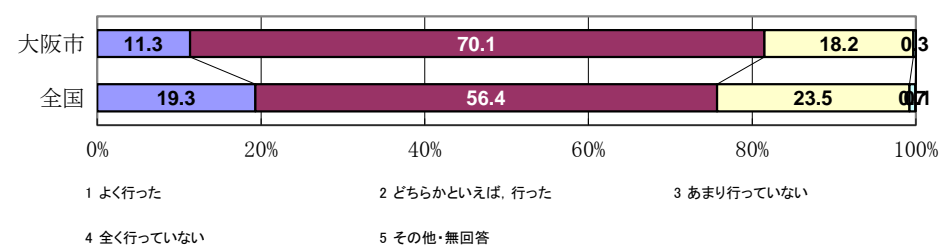
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



45

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

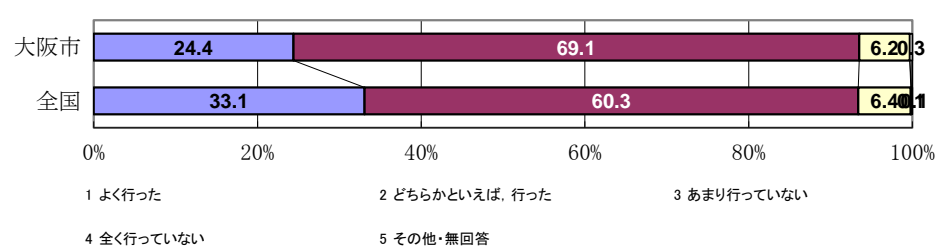
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



67

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか

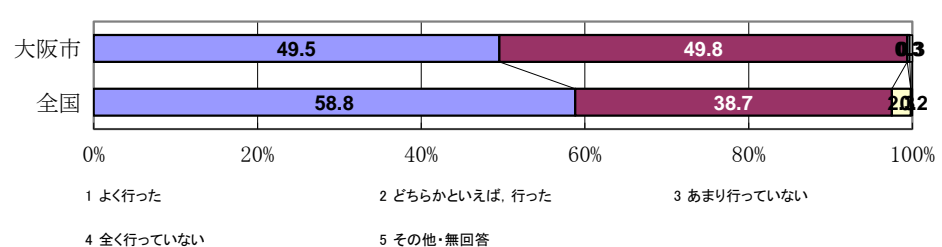
学校 「よく行った」を選択



73

調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



87

PTAや地域の人が学校の諸活動(学校の美化, 登下校の見守り, 学校行事の支援など)にボランティアとして参加してくれますか

学校 「よく参加してくれる」を選択

